

都市・地域計画（出題意図）

問題Ⅰ

大都市圏の市街化区域内における「農住混在市街地」を題材として、日本の土地利用・都市計画制度の基本的仕組みと、その運用上の課題の理解を確認する。特定の立場（農地保全を絶対視／宅地化を絶対視）を正解とするのではなく、制度の歴史的経緯や多様なステークホルダーの視点を踏まえた上で、自分なりに整理して論理的に説明する力を重視する。

- (1) 区域区分制度導入時の経緯を踏まえて、市街化区域内に農地が含まれることになった理由を論理的に説明できるかを問う。
- (2) 居住者・農家・自治体という三者の立場から、農住混在のもたらす課題や利害対立を整理できるかを問う。
- (3) グラフの読み取りを通じて、生産緑地とそれ以外の市街化区域内農地の減少傾向の違いに税制や行為制限などの制度がどのように関わっているかを説明できるかを問う。また、いわゆる生産緑地の2022年問題を理解しているかを問う。
- (4) 都市農地の環境保全機能への認識の普及と、それが注目されるにいたった社会的背景を関連付けながら論理的に説明できるかを問う。

問題Ⅱ

交通行動分析の代表的なツールである離散選択モデルについて、基本的な構造・行動仮定・数理的性質を段階的に理解しているかを確認する。単なる用語暗記ではなく、交通需要予測（4段階推定法）との対応関係、モデル背後の行動原理、数式の意味の解釈、およびモデルの限界点（IIA特性）を論理的に説明できるかを重視する。

- (1) 交通需要予測における4段階推定法（発生・集中、分布、分担、配分）が、それぞれどのような離散選択行動として表現できるかを理解しているかを問う。
- (2) 縮散選択モデルが前提とする人間行動の基本的な仮定（合理性・完全情報など）を正確に説明できるかを問う。
- (3) 多項ロジットモデルにおける選択確率の微分を通じて、基本的な計算力と数式操作能力を確認する。
- (4) 選択確率の変化率を数式として導出し、その結果がどのような性質を示しているかを論理的に説明できるかを問う。特に、ロジットモデルのIIA特性を、選択確率比とは異なる観点（交差弹性値に近い視点）から理解しているかを確認する。
- (5) ロジットモデルのIIA特性が実際の交通行動分析においてどのような問題を引き起こしあるかを、具体例を用いて説明できるかを問う。

問題Ⅲ

都市化をめぐる議論について、①都市圏の定義と指標の違いに関する基礎的理解、②都市化をもたらす経済メカニズムに関する理論的理解、③理論を具体的な事例に結びつけて説明する応用力を総合的に確認する。用語の暗記にとどまらず、概念間の違いや相互関係を整理し、自分の言葉で説明できるかを重視する。

- (1) DID（人口集中地区）と都市雇用圏の違いを理解し、それぞれが都市圏を定義する異なる視点（空間的・機能的）を持つことを説明できるかを問う。また、都市圏を一義的に定義できないことを理解し、分析目的に応じた指標の使い分けを論じられるかを問う。
- (2) 都市に人口が集まる経済的な理由について、理論的に説明できるかを問う。特に、比較優位、規模の経済、集積の経済といった異なる概念を区別して説明できるかを確認する。
- (3) 都市経済学の中心概念である「集積の経済」を具体的に理解し、現実の都市現象や産業集積の事例と結びつけて説明できるかを問う。